津屋崎祇園山笠

令和5年度日程

7月9日(日)　■18時　お宮入り

7月15日(土)

■ 裸参り

1番山笠 18時10分 お宮入り　18時30分 お宮出し
2番山笠 18時15分 お宮入り　18時35分 お宮出し
3番山笠 18時20分 お宮入り　18時40分 お宮出し

※コロナウィルス感染拡大の状況に応じて計画が変更される場合があります。

7月16日(日)

■ 追 山

1番山笠　午前8時10分　お宮入り
2番山笠　1番山入り次第　宮入り
3番山笠　2番山入り次第　お宮入り
追山開始　午前9時00分

道しるべ

津屋崎祇園山笠について

「津屋崎山笠」は、博多祇園山笠と深いつながりがあり、約三百年前(一七一四年)に櫛田神社から波折神社に祇園の神様を迎え、三つの山笠を奉納して「疫病」「災害」の退散祈願をしたのが始まりと言われています。

当時から漁業を中心とした「北流れ」、商業を中心とした「新町流れ」、農業を中心とした「岡流れ」の三つの流れで組織されています。

追山は、古い町並み(津屋崎千軒通り)の狭い路地を清い水、勢い水、力水を浴び駆け巡り、たびたび山笠同士がぶつかり合うこともあり「喧嘩山笠」ともいわれます。もともとは七月十九日に奉納されていましたが、現在は十九日に近い日曜日に奉納されます。

追山の前夜祭として安全祈願を行う裸参りは、上半身裸で締め込み姿の「かき手」たちが、提灯を掲げ市内を勢いよく駆け抜け、三社(波折神社、金毘羅神社、宮地嶽神社)参りを行っています。

山笠を飾るのは、「筑前津屋崎人形巧房」の人形師が丹精込めた、手作りの豪華絢爛たる武者人形の合戦絵巻です。

厳粛な裸参り、そして勇壮豪快な追山。津屋崎祇園山笠は、郷土の伝統文化の誇りとして、郷土を愛する青少年の健やかな成長と人間関係の強い絆を大事にしながら地域の活性化と振興開発を願う祭りです。